

ボランティアの皆さん ありがとうございます

災害列島といわれて久しくなりました。地球温暖化の影響で台風規模も強さも大きくなり、毎年あちこちで堤防決壊や土砂崩れなどによる大きな被害が生まれています。長野市でも昨年は台風十九号により千曲川の堤防が決壊して、濁流が広範囲を襲い、家を壊し、床上まで水につかり、広範囲に厚い泥が溜まりました。被災地に立つてみると、改めて全国に起きている災害を実感しました。千曲川のような大きな河川の堤防が決壊するなどということは思いもよらないことでした。「想定外」は無くなりました。

打ちひしがれた被災地の救援に全国から大勢のボランティアが来てくれました。集団となつ

て歩いて被災地に入っていきます。汗だらけになって、泥だらけになって、くたくたになって、厚くたまった泥をかき出してくれます。泥だらけになってしまったものを運び出してくれます。洗ってくれます。拭いてくれます。本当にありがたいと思いました。十八号線沿いに掲げられた「がんばろう長野」の看板が涙で薄く曇って見えました。

新型コロナウイルスの最前線で頑張っている医療機関の皆さん ありがとうございます

令和二年は中国の武漢で発生した新型コロナウイルスが、世界的な大流行（パンデミック）になりました。日本でも累計で約六万人が患い、毎日五百人から千人の人が新しく感染しています（九月現在）。新型コロナウイルスに効

果のある薬はありません。症状がない状態で周囲の人に感染します。高齢の人は急激に悪化して死亡に至る割合が高いです。とても怖いです。早期発見し早期隔離して、大勢の人に感染しないようにして、回復（自然治癒）を待たなければなりません。

患者さんが来院する医療現場に従事する皆さんは、り患しないように大変な緊張感の中で仕事をされていることと思います。ひとたびり患すれば、その病院はクラスターとなつて、周囲に大きな影響を及ぼしてしまいます。そのような事例も発生しています。でも、新型コロナウイルスとたたかわなければなりません。

最前線で頑張っている医療機関の皆さん、それを支えている大勢の皆さん、本当にありがとうございます

感謝の日

思えば、私たちは大勢の人々に支えられて生きています。自分の身の回りのものをはじめ、生活のあらゆるものは一つとして自分できたものではありません。

おかげさま

太陽のおかげで命がある

空気やお水のおかげで 生きていられる

大地のおかげで 食べ物がある

ご飯さん パンさん おやさいさん

お肉さん お魚さん くだものさん

お父さん お母さん ご先祖さま

先生 友だち 子どもたち

みんなのおかげのおかげさま

おかげさまは ほとけさま
ほんとにほんとにありがとう

幸福はどこと

朝、目が覚めたことが幸せです。今日お食事がいただけることが幸せです。今日働けること、今日学校に行けることが幸せです。いや、悲しいことがあっても、いたわり合えば幸福です。苦しいことがあっても、助け合えば幸福です。不幸な運命もその運命に負けずにがんばれば、その経験が力になって成功の基となるでしょう。いわゆる幸福はかえって不幸で、金持ちの家に生まれて恵まれすぎた苦勞知らずの坊ちゃん育ちが仇となることもあります。何が「幸福」で何が「不幸」か、それは「感謝」の心のあるなしで決まるのです。

現在の日本は、世界で一番恵まれているのではないでしょう。今日の経済繁栄、そして福祉国家、このように恵まれた日本に暮らしているながら、それをあたりまえとして感謝の心がなければ、いつ、どこに幸福があるでしょう。いや、品物や食べ物を粗末にして、感謝の心を忘れた日本人はかえって不幸であります。しいまには、夫婦も、親子も、兄弟も、ののしつたり、争ったりして、家庭内暴力や、学校内暴力が起きるようになっては、どんな経済大国も不幸です。ここまで来たら、日本国民は、家庭も、職場も村も街も、国中が「おもしろい」と「感謝」の心で仲良く助け合い、お互いが「ありがとう」と言い合い、さらに、全世界、全人類のために「おもしろい」の心を持ち、みんな「感謝」して、世界が仲良く平和で栄えるようにしましょうではありませんか。

合掌

仏教法話

—心のひかり・人生のしるべ—

ありがとう

